

パネル発表「学生と学校飼育動物」

学校生きものがかり

学校いきものがかりとは、学校飼育動物について『学び・考え・生かす』ことを目的に活動している、岐阜大学の学生団体で、3年前に立ちあげられ、現在10名で活動しています。

『学び』ではこれまでに、小学校での動物ふれあい教室への協力や、全国学校飼育動物研究大会に参加するなどの活動を行ってきました。実際に現場で体験した話を聞くことや、自分たち自身で体験したことで、現在の学校動物飼育を取り巻く環境、学校動物飼育に関する問題など、多くのことを学ぶことができたと思っています。また、学校動物飼育に関する本を読んだり、各都道府県、自治体の学校飼育動物に対する取り組みを調べてみたりして、サークルメンバーたちの『学び』の知識も深めていきました。

この『学び』をもとに、小学校に飼育動物に関するアンケート調査や、岐阜大学近隣数校の飼育担当の先生に対するインタビューを行い、動物飼育が抱える悩みや問題点を浮き彫りにし、『考え』ました。アンケート調査によって、動物の病気、扱い方、個体数管理、衛生面などのような獣医師による解決が可能な問題点と、休暇中の管理や費用面、小屋の修理のような各方面からの協力が必要な問題点が見えてきました。この各方面の協力というのは、先生や児童、保護者（PTA）だけでなく、地域住民の方々をも取り巻き、協力し合い、方策を考え、実行していくことが必要だと考えています。

また、インタビューでは、各小学校間での共通点、相違点、問題点を挙げました。共通点は、身近に「命の大切さ」を実感、上級生から下級生へ飼育動物の引き継ぎ、土日は生徒や保護者が世話、アレルギーの生徒は小屋外掃除や見学が挙がりました。相違点は、飼育担当学年の違い、長期休暇時の世話担当者、世話をする担当動物の決め方が挙がりました。問題点は、衛生面や個体数管理で不安、「死」を目の当たりにしすぎてしまうということが挙がりました。私たちは問題点に対して、オスメスの分別をしっかりする、学校全体が衛生面に対する意識を高め、正しい知識を得る、屋内飼いにし、生命をより身近に感じさせ、「死」と正面から向き合ってもらおう、といった対策を『考え』ました。

この『考え』を『生かす』ために、私たちは、動物飼育活動のサポートのための動物プリントの作

成とモルモットの交配・出産・育児・譲渡の教室飼育の様子を記録したモルモットストーリーの作成を行いました。

プリント作成では、モルモット・チャボ・ウサギに関するプリントを作成しました。これは、『ウサギやチャボの紹介をしたいな』と思っても、動物という教材の説明は、他のものよりも手の出しにくい分野だと思います。そこで、すぐに使える既成のプリントがあれば、飼育動物を授業などに取り入れやすいのではないかと考えました。飼育動物メインの時間だけでなく、理科や図工の授業などにもお使いいただければと思い作成しました。

また、『生かす』ための活動として、『モルモットストーリー』という活動を行いました。この活動は、小学校で教室飼育を行っているモルモットの交配・出産・育児・譲渡の様子を記録したものです。このモルモットストーリーを通して、子どもたちがどのように感じ、どのような変化があらわれるのかを、その小学校の先生の協力を得ながら記録していきました。子どもたちの多くは、このモルモットストーリーを実施する前からモルモットの世話を積極的にやっていましたが、一部の子どもたちが最初は世話に消極的でした。しかし、妊娠・出産を通してそんな子どもたちにも心境の変化が現れました。出産後に子どもたちに作文を書いてもらいましたが、実際に産まれたモルモットの赤ちゃんを見て、今まで動物が嫌いだった子どもたちが、モルモットを「少しかわいい」や、「赤ちゃんを大事にしたい」と思えるようになったと書かれていました。また、母親の立場になって、「とてもつらかったんだろうけど、嬉しいんだと思う」と書いていた子もいました。

このようなことから、動物の良さと命の大切さを伝えられたと思います。

これまで、学校いきものがかりとして、上記のような活動をしてきましたが、そこで、様々な人・立場の学校飼育動物との関わりについて知ることができました。私たちも学校飼育動物に関わる力になればと思っています。それにより、学校飼育動物とそれを取り巻く環境がもっとよくなればいいと思います。これからは様々な活動をしていきたいと思

(岐阜大学学校飼育動物サークル)